



全国路面電車サミット 2015 鹿児島大会 20151024~25



●撮影 鳥居／関連記事 2P～7P

☆☆活動報告☆☆

10月21日 ROBA10月例会・理事会
23日 MM出前講座(国見小学校)
24~25日
全国路面電車サミット鹿児島大会
25日 モーニングライド

☆☆今後の予定☆☆

11月18日(水) ROBA11月例会・理事会
28日(土) 交通まちづくり講演(福井市中央
公民館環境講座) AOSSA6F
雷都レールとちぎとの意見交換会・懇親会
12月16日(水) ROBA12月例会・理事会→忘年会

照ちゃんの独書感想文

「音頭(おんど)」と言えば大瀧詠一。この書籍では「第五章 冗談音楽として新展開をむかえる音頭」の項でクレージーキャッツ・萩原哲晶氏などといっしょに紹介されている。残念ながら2013年12月30日にこの世を去ってしまったが、音楽評論家のピーターバラカンさんも好きなアルバムのひとつに大瀧詠一の「LET'S ONDO AGAI~ナイアガラ~」をあげている。

確か変集長のライブラリーにもあったのですが、聞こうと思ったら行方不明。どうしても聞きたくなり紀伊国屋書店福井店CDショップ(福井西部5F)へ先日予約注文をしにでかけました。(今時はネットショッピングで購入するでしょうが・・・)

ところが、すでに販売が終了しているという。失意の中、となりの書籍コーナーでうろついていたら、お店の女性が追いかけてきて、千葉県に在庫の1枚があるという返事。

そのときは女性が天使に見えました。

ニッポン大音頭時代

大石始 河出書房新社 2,200円(税別)

全国路面電車サミット 2015 鹿児島大会参加報告

10/24(土)から 25(日)にかけて開催された第 12 回全国路面電車サミット 2015 鹿児島大会(LRT 都市サミットとの併催)に参加しました。今回鹿児島までの移動手段として、新幹線、航空機、フェリーと3つの選択肢がありましたが、航空機やフェリーは空港や港からのアクセスに時間がかかり欠航時のリスクも大きいため、往復とも新幹線利用にしました。そこでせっかく時間をかけて行くのだから、往路のどこかで、できれば路面電車の走行都市で途中下車しようと考え、10/22(木)の夜仕事が終わってから慌ただしく福井を出発し、深夜広島駅前のホテルにチェックインしました。

さて、10/23(金)の朝から、1日乗車券で下調べなしの行ったところ勝負で広島市内を散策。まず、広島駅前から乗ったグリーンムーバーMAX は乗ってみてびっくり、何とサンフレッチェ広島の応援ラッピング電車でした。車内アナウンスを停留所ごとに選手が交替で担当しており、サッカーファンにはたまらない演出だと思います。2016 年 2 月末まで運行されていますので、興味のある方はお早目にどうぞ。

(参考 URL) http://tabetainjya.com/archives/sanfreccce/_2015_12/

その後、十日市町、横川駅前、西広島、原爆ドーム前の各電停に立ち寄り、原爆資料館を見学してから博多経由で夕刻鹿児島に到着しました。

横川は噂には聞いていましたが JR の駅改札と広電の電停を結ぶ導線が屋根付き通路で直結しており、乗り継ぎ結節点としての完成度の高さに感心しました。また、旧京都市電の車両にも運良く乗れました。私が中学生の時使っていた車両が 40 年近く経った今でも活躍しているのは感無量です。

原爆資料館は私も含めて 8:30 の開館と同時に入場する人が多く、また平和記念公園内では、団体客や修学旅行の生徒の姿も目立ちました。公園は広島市内中心部に位置するため、日常の通勤通学で通り過ぎるだけの人も多いのですが、やはり戦後 70 年の節目の年、原爆犠牲者への慰霊の気持ちを込めて広島を訪れる人の多さを改めて実感しました。

翌土曜日も朝から鹿児島市電の1日乗車券を使い、とりあえず市電全路線完乗のため、谷山と鹿児島駅前の各電停を訪れました。広島では朝ラッシュ時に、降車客の多い電停で運賃箱を持った係員が待機していてすべての扉から降車させていましたが、鹿児島ではそこまでの対応はありません。

その他気付いた事として、谷山の「日本最南端の電停の碑」は PR するにはあまり目立たず、鹿児島中央駅前電停は JR の駅から見通すことが出来ず迷いやすい、鹿児島駅前電停では、次の電車がどの乗り場から発車するのかわかりにくいと感じました。くしくもこの事は、日曜日の路面電車サミット本会議で能勢謙三氏(鹿児島まち案内ガイド 元南日本新聞記者)から話題提供されていました。

9:30 からは、LRT 都市サミットの行事として、フリーアナウンサー福澤朗さんの講演会がありました。事前に申し込んでいたものの抽選に外れたため、講演会場(東急 REI ホテル)には入れず、鹿児島中央駅前の中継会場(アミュ広場)での聴講になりました。

講演内容は一般向けで、鉄道ファンとしての雑感を話されましたが、路面電車に乗ったら必ず車両銘板をチェックすること、鉄道ファンは薬指の長さが人さし指より長い傾向にあること、幼少期に西武新宿線沿線に住んでいたのが富山地鉄で旧レッドアロー号を見て感激したこと、鉄道車両を擬人化するのは

日本特有の文化であること等の興味深いお話が聞けました。また、自身の卒業論文のテーマ「日本式家屋における教育的意義」を紹介し、日本式家屋と路面電車には共通する部分がある(外から中が、また中から外が適度に見えることでコミュニケーションの場として利用しやすい)ことにも触れられました。

あと、LRTの英訳がLight Rail Transitでは一般人にはわかりにくい、Local Revival Transit(地域再生交通機関)の方が馴染みやすいのではないかと、発信力(コミュニケーション力)を鍛えるには、確実に伝えたいポイントを「高く、大きく、ゆっくりと」発声することが大切との見解も話されました。

福澤さんの講演の後、ヴァンソン藤井由美さん、富山市の副市長、宇都宮市の建設部次長から各地のLRT事例紹介がありました。

午後からは、ゆーゆーフェスタの会場(鹿児島市交通局)に移動し、車庫内の展示車両や〇×クイズ大会の様子、高橋涼子さん(公共の交通 RACDA の全国広報担当)の音楽ライブ等を見て楽しみました。芝生広場の日差しが極めて強く、長時間居ると気分が悪くなる状況でした。この日の鹿児島の最高気温、10月下旬だというのに何と真夏日、30℃を記録していました。

夜の路面電車サミット懇親会まで時間があつたので、急遽ヴァンソン藤井由美さんとのミニ懇親会が設定され私も参加しました。十数名が東急 REI ホテルのロビー喫茶コーナーに集まり、午前中の講演会の内容等をネタに議論が交わされました。

日曜日午前の本会議では、主催者・来賓の挨拶、鹿児島市の公園緑化課職員から芝生軌道の紹介、サミット参加各団体からの近況報告、高橋涼子さんの音楽ライブ、全体意見交換会(司会:宇都宮浄人氏、コメンテーター:服部重敬氏、能勢謙三氏)、サミット宣言採択の順で行われましたが、報告や意見交換で盛り上がり、終了予定時刻を30分以上も超過しました。

福井からは、来春予定されている福鉄の駅前延伸、えち鉄と福鉄の相互乗り入れについて工事現場の写真も示して紹介し注目されましたが、札幌も環状化工事が順調に進捗しており、出席者の興味関心を集めていました。こちらは福井より一足早く12月下旬に開業とのこと。服部重敬さんからの課題提起では、諸外国(欧米以外の中国等でもLRT整備が進んでいる)に比べて日本は路面交通政策で周回遅れからさらに2周遅れになったこと、開業間もない新潟BRTで問題点が多すぎる事等の厳しいご指摘がありました。

今回の路面電車サミット懇親会には約90名、本会議には約100名もの参加がありました。遠方からの参加者に配慮し主要行事を土曜日の夜と日曜日の午前に集中させていたため、最悪平日に休みが取れなくても参加できる安心感もあり、多くの参加者が集まったのだと思います。

会場出口のホワイトボードには出席者への感謝の言葉に続いて、「次回は札幌、宇都宮、福井、岡山で楽しい報告が伺えそうですね」とのメッセージも添えられていました。福井の取り組みにこれだけ注目し期待していただいているのは大変喜ばしいことです。まずは来年5月に開催予定の中部地区路面電車サミットでどのようなおもてなしが可能か、今回の経験も活かしつつ考えていきたいと思っています。

(鳥居:記)



グリーンムーバーMAX



横川駅電停



小網町電停(安全地帯なし)



十日市町電停



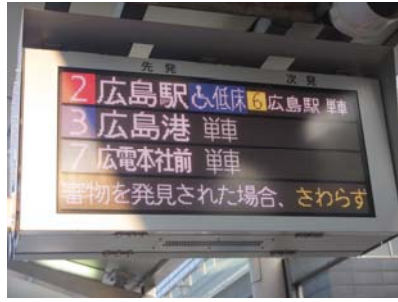
元京都市電の車両



昭和 53 年に広島に移籍



原爆ドーム前電停



発車案内で車種も表示される



全国各地から送られた折鶴



谷山電停



閑散としている鹿児島駅前 JR 駅構内は国鉄時代の面影も残る



消費税 8%後に 170 円に値上げされた



サミット懇親会会場前の高見橋電停



鹿児島中央駅前アミュ広場



ゆーゆーフェスタ会場内での車両展示



花電車



芝狩り電車



会場の芝生広場 ライブの最中、隣の市立病院にドクターヘリが着陸



新型低床車両



広告ラッピング車両



ホテル入口の歓迎看板



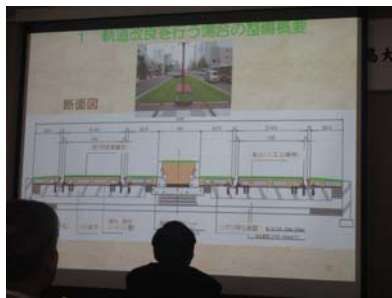
サミット本会議開始直前



福武線軌道延伸の現場も含めた事例紹介(清水理事)



札幌環状線化工事の様子



芝生軌道の工法の紹介



シラス緑化基盤の実物展示



服部重敬さんからの課題提起

LRT 都市サミット鹿児島 2015、全国路面電車サミット 2015 鹿児島大会報告

去る 10 月 23、24 日に開催された LRT 都市サミット鹿児島 2015、24 日、25 日に開催された全国路面電車サミット 2015 鹿児島大会に参加して参りましたのでご報告致します。私は前日の 22 日に熊本に寄り、個人的な用事の一つ済ませ、NPO 法人くまもと LRT 市民研究会の塚本さんと情報交換及び熊本市電の動画撮影を行い、翌朝鹿児島へ向かいました。鹿児島中央駅は九州新幹線開業に伴って大改装し、西鹿児島から駅名を改めました。駅には入口横に屋根付き広場が併設されており、LRT 都市サミットの第 2 会場となっていました。代表駅と屋根付き広場のロケーションが福井が整備中の福井駅西口の様子と似ており、参考にと観察。そして市電の鹿児島中央駅前電停に移動、日本路面電車同好会の堀切さんと合流して付近で写真と動画の撮影。鹿児島中央駅前電停は新幹線開業時に道路中央から駅前広場に移設され、利便性が大幅に向上した事例。この電停は熊本市電の熊本駅前電停と同じ形態で終点ではない電停が道路中央から道路端（駅前広場）に寄るタイプなのですが、終点ではない電停さえ一旦駅前広場に入り交通結節機能の向上を図ることが当たり前になってきていることを実感しました。

LRT 都市サミットの会場、東急 REI ホテルに移動。ここでは実は NPO、市民団体の人たちが次々と締め出しを食っていました。函館の皆さん、岡山 RACDA の岡会長、とよはし市電を愛する会の伊奈会長、など抽選に漏れたとか予約を受けていないとかいろいろな理由で。岡さんや伊奈さんはいろいろな交渉をしたり人を介したりして何とか入りましたが、函館の皆さんは諦めて帰られたそうです。全国的には、「市民、事業者、行政が（地域が）一体となって支える」との言葉が定着しつつある地方鉄軌道の分野でさえ、まだまだ NPO や市民団体が行政から協働の相手として十分には認識されていないという実態を垣間見たような気がしました。

サミット開演。首長会議では印象に残った話がいくつかありました。

鹿児島＝移転した市電沿線の JT 跡地に市電車庫と市民病院を移転した。鹿児島大学の隣接地でもある。（後で見に行ったが素晴らしい施策です。）中心市街地でマンション建設が相次ぎコンパクトなまちづくりが進む。ウォーターフロントの観光路線を構想している。路面電車の走る都市景観が街の魅力。市民・事業者・行政の協働、情報や経験の共有が大事。

富山＝市長の言葉「街がお洒落であることが人を動かす」（非常に共感を覚えました。）

岡山＝岡山駅近くのイオンモール開業を機に駅前広場乗入れ 3 方式の案、来月決める。吉備線 LRT 化。

熊本＝新水前寺駅前電停 100 メートル移設し交通結節機能向上。乗客増で積み残しが出ている。（これは塚本さんから事前に聞いていましたが、既存の車両では定員が間に合わなくなっているようです。）

松山＝JR 高架化。JR と路面電車が 100 メートル離れる。路面電車を 700 メートル延伸。

広島＝駅前広場にはバスが入りきらず路面電車の処理能力も低い。JR 広島駅 3 階部分に乗り入れる。

豊橋＝昨年の市民アンケートで市電に関しトップになったのが「自分の利用に関係なくより良いものにするべき」という回答。末端で路面電車とバスのホーム to ホームを計画。とよはし市電を愛する会の会員が 220 人、手作りふるさと賞を受賞。行政と事業者と市民でいいものを作っていきたい。

福井＝行政、事業者、市民が一体で支えている。

サミット宣言でも「LRT は集約的まちづくりの装置」「LRT で都市の魅力を向上し交流人口を増やす」「行政、事業者、市民」「他都市での拡充のため情報と経験を共有」などの文言が入りました。

24 日はフリーアナウンサーの福澤朗氏が講演。ブランディングの話で、「都道府県、市町村のブランディングの新機軸が LRT。既成概念にとらわれずにやってみて欲しい」という言葉が印象的でした。

ヴァンソン藤井由実さんの国内外の LRT 事例発表では、「フランス 28 都市で LRT、20 都市で BRT を開業したが、1000 人中 600 人がクルマを所有しており日本と同程度である。ストラスブールでは社会福祉政策として LRT を開業。フランスは日本より 20 年早く都心の空洞化が起こった。LRT では徹

底して利用者の便宜を図る。LRT はクルマとの共存を図るシステム。歩きやすい街を実現。LRT を街（沿線）の景観整備に役立てた。ブランディング施策でもあり観光に役立てた。“交通の見せる化”である。ストラスブールは公設型上下分離。ストラスブールの LRT は年間 1 億人が利用。乗車券収入は 3 割。残りは税金で賄っている。フランスでは公共交通は基本的な社会サービスの一つである。今後の方向性としてモビリティマネジメントの推進、LRT のケール市（ドイツ）への延伸等がある。ケール延伸では沿線開発型を採る。コンパクトなまちづくりを行い、交通計画と都市計画の整合性を確保する。移動手段を選ぶことができ、快適に歩くことが出来るまちづくりを行う。自治体・国・技術全体で支えなければならない。市民の理解が重要。BRT の定義は『ほぼ LRT と同じサービス』『軌道がない』との貴重なお話が聞けました。富山市中村副市長は「中心市街地に活発な民間投資が起きている。中心部に子育て世代も増えている。市内電車は利用増。堅調な地価の動きが継続。LRT が走る風景を大事にしている」宇都宮市の福原建設部次長は「宇都宮市はネットワーク型コンパクトシティを目指す。過度にクルマに依存する社会から公共交通が選択できる社会へ転換する。併用軌道 11.5 キロメートル、専用軌道 3.5 キロメートル、公設型上下分離を採り上は官民連携による会社とする。車両は 30 メートル級定員 155 名を 18 編成導入する。朝夕 6 分間隔、日中 10 分間隔、快速運行もめざす。事業費 452 億円。2019 年（平成 31 年）開業。」と説明されました。

午後からは全国路面電車サミット「ゆうゆうフェスタ」を新交通局に隣接する公園で見学、新交通局も公開され、電車を含め見学。新しい市民病院とその玄関正面にある電停も見てきました。その後、有志がヴァンソン藤井由実さんと情報交換の場を持ち、貴重なお話が聞けました。夕方からは懇親会。全国路面電車サミットらしく、全国から市民団体が多数集結し、逢沢一郎議員をはじめとする来賓もあり、情報交換やネットワークの構築において重要な場になりました。シンガーソングライターで RACDA 全国広報担当の高橋涼子さんの「路面電車走れば」披露の場面では私が指名されて高橋さんがネットワークの仲間になった経緯と「路面電車走れば」が緩やかな啓発ソングであることをお話したのですが、このネットワークに高橋さんが加わったことを会場全体が歓声を上げて歓迎されたのが印象的でした。

25 日は実行委員長の糸嶺篤成氏の開催挨拶、来賓挨拶と福元修三郎鹿児島市交通局長の挨拶のあと、鹿児島市公園緑地課から芝生軌道の紹介がありましたが、桜島火砕流堆積物「シラス」を使った素材が活かされていることを興味深く聞きました。そのあと各団体が報告したのですが、福井の報告では福井鉄道とえちぜん鉄道の相互乗入れ・駅前延伸を報告しました。他団体では札幌の市電環状化が興味深い報告でした。全体意見交換会では宇都宮さんが司会、服部重敬さんと元地元紙記者、能勢謙三さんがコメンテーターを務めたのですが、「LRT 普及等で何が重要か」という課題で「(市民はもちろん) 行政にも LRT についての情報が十分に届いていないのは確か。情報発信を強化し、これをきちんと届けることが特に重要である」との服部さんのコメントが印象に残りました。今回の全国路面電車サミットは岡山

の RACDA が中心になり鹿児島出身の堀脇理事の人脈を頼って開催されました。準備・交渉段階ではかなりの苦労もされたようで、今後の開催をどうするのが課題として残りました。今回は LRT 都市サミットとの併催という方法を探りましたが、さらなる開催方法を検討する必要があるのかもしれない。中部地区路面電車サミット並の規模で開催することも選択肢かもしれません。

翌日、鹿児島市電全線を見学・乗車・撮影して有意義なサミット参加を終えました。(文・清水)



鹿児島市電と新市民病院

福井市立国見小学校でMM教室開催（実施日：H27年10月23日）

（報告：内田佳次）

福井市の27年度事業としてROBAが受託していますMM（モビリティ・マネジメント）教室を国見小学校で開催いたしました。26年度はMM教材を作成しその教材を利用した教室も2回（河合小、酒生小）開催しましたが、本年度は実践版としての教室の開催です。



国見小学校の環境に関する授業の状況を考え、教材も修正を加えて準備を整えました。講師として畑さんと林博さん。内田はバックアップに回りました。開催日は10月23日13:50～14:35の授業です。5・6年生合同の12名のクラス。

CO₂が地球温暖化の大きな原因であることや、このまま温暖化が進むと海面上昇し国見小学校（海拔3.5M）のすぐ近くまで海面が押し寄せることなどを学習した後、ひとりひとりCO₂削減に何ができるのかを考えてもらいました。

また、国見小学校から敦賀までバス・電車で往復した場合とマイカーで往復した場合のCO₂の排出量を児童全員が計算して車がバス・電車の5倍相当の排出量になることを学習しました。最初は硬い表情の児童も後半には色んな意見が出るのになり、今回のMM教室がなんとか国見小学校の総合学習に寄与できたのではないかと思います。



（参考）児童12人の世帯の保有台数

1台0人　2台2人　3台6人　4台1人　5台3人



講師の林博さん



担任の堂下先生



講師の畑さん

指導する畑さん

鉄道友の会福井支部 創立50周年記念誌 「ふくいの鉄道160年」発刊

岸本 雅行

私が支部長を務める鉄道友の会福井支部は、昭和40年に創立、今年で50周年を迎えることができました。これを記念して、『ふくいの鉄道160年』～ファンの見たふくいの鉄道いまむかし～という書籍（B6判・260ページ）を発刊いたしました。福井県に鉄道が開通してから130数年にもかかわらず、『ふくいの鉄道160年』というタイトルを見られて疑問に思われたかと思います。実は今から160年頃前、福井県が生んだ3人の偉人、橋本左内・村田氏寿・横井小楠らの著作にそれぞれ鉄道に関する記述がみられ、彼らがいち早く鉄道を見たり聞いたりしていたということで、このようなタイトルをつけさせていただきました。

第1部の「ふくいの鉄道160年のあゆみ」は、この3人の偉人が活躍した160年前から現在までの福井県内の鉄道の歩みのすべてを、豊富な写真や地図を使うことによりわかりやすく解説してあります。第2部の「ふくいの鉄道のあれこれ」は福井支部会員投稿による鉄道に関する話題、第3部の「福井県鉄道史年表」には福井県内の鉄道に関する出来事を年代順に詳細に記録してあります。過去に福井県内を対象とした、これほど系統的で詳細な鉄道関連書籍は発刊されたことはなく、鉄道ファンのみならず福井県の地理歴史に関心をもっておられるすべての人々にとって、かならずや満足して読んでいただけるものと自負しております。ROBAの会員の皆様、ぜひご覧ください。詳しくは、「鉄道友の会福井支部」のHPをご覧ください。

購入希望者は、県内の勝木書店でお買い求めいただけます。書店で売り切れの場合は、例会の時などに直接ご購入いただいても結構です。遠方の方は、下記の方法でお申し込みください。入金を確認後、発送させていただきます。

定価 1,500円＋消費税 120円＋送料 200円＝合計 1,820円

①現金書留または郵便小為替で送金

〒915-0801 福井県越前市家久町 79-30 鉄道友の会福井支部 岸本雅行

②口座振込

ゆうちょ銀行 00780-6-10506 鉄道友の会福井支部

福井県の鉄道 その歴史と展望

- ・ふくいのは鉄道は江戸時代に芽生えている？
- ・汽笛一声新橋、開業一番列車に乗った福井人は？
- ・明治の修学旅行生はどうやって東京まで行った？
- ・敦賀が現代の成田だった？
- ・総項目数750件余りに及ぶ年表は福井県随一！

鉄道友の会福井支部 創立50周年記念誌

ふくいの鉄道160年

～ファンが見たふくいの鉄道いまむかし～

付・福井県鉄道史年表



勝木書店で絶賛発売中!!

こんな本、今まで福井になかった

B6版 260ページ

主	第1部 ふくいの鉄道160年のあゆみ
要	第2部 ふくいの鉄道あれこれ
目	北陸線の蒸気機関車 ～明治大正期～
次	明治23年福井中学の東京修学旅行
	夢はヨーロッパへ
	未成線・吉崎鉄道に残るトンネルの不思議
	福井鉄道西武生駅の思い出
	福井鉄道鯖浦線の思い出
	えちぜん鉄道12周年 ～奇跡の復活から挑戦へ～
	第3部 資料編・福井県鉄道史年表

通信販売はこちらで

検索

鉄道友の会福井支部

定価 1,500円 + 消費税 送料 200円(税込)

講演会「北陸新幹線開業と並行在来線」に参加して

井ノ部 航太

11月14日(土)に福井県並行在来線対策協議会の主催によって開催された講演会「北陸新幹線開業と並行在来線」に参加してまいりました。講師には、あいの風とやま鉄道(株)代表取締役社長の市井正之氏をお迎えし、質疑応答を含めて約100分の講演会でした。

市井氏は近畿日本ツーリスト(株)の常務取締役から転身された方で、民間出身の社長がどのように経営を行っているのか、大変興味深く聞くことができました。

ご承知のとおり、あいの風とやま鉄道沿線は高岡、富山、魚津、黒部などの主要都市を抱えており、福井県内を走る北陸本線と比べ、沿線人口や輸送密度は恵まれた環境にあります。しかし経営は厳しく、利用者増に向けて様々な施策を行っています。

その中で印象的なのは、「駅女子」が沿線をガイドする「ぷち旅」という試みです。これは、19駅それぞれに地元の女性が、「駅女子」として観光名所やお食事処を案内するというもので、鉄道旅の魅力をうまく伝えていると思います。ホームページからもご覧いただけますので、ご関心のある方はどうぞご覧ください。

一方で、気になったこともあります。利便性の低下が多方面でみられることです。あいの風とやま鉄道はJRいしかわ鉄道との旅客流動が多いにも関わらず、初乗り運賃がダブルカウントされるためJR時代よりも運賃が割高になってしまいました。富山—金沢間の普通運賃は、970円から実に1220円に値上げされています。また、一編成当たりの車両数が少なくなったことで、高校生の通学ラッシュに対応できず積み残しを起こしたり、サンダーバードとの接続が悪いため大阪方面の利便性が低下するという現象もみられています。

これはJRいしかわ鉄道との経営統合によって解消できることと考えたので、その可能性について質問をしましたが、「両県ともに県内部分について税金を投入しているので、県を超えて経営統合するのは無理だ」という回答でした。お客様の立場にたって富山—金沢間の利用実態をみれば、そのような縄張りの発想に陥るわけもなく、お役所根性が染みついているなどあきれた次第です。肥薩おれんじ鉄道は熊本・鹿児島両県が株主ですが、「経営上特に問題はみられない」とする淵脇社長との経営姿勢の差が際立ちます。

福井県で並行在来線会社が立ち上がるのはもう少し先の事ですが、このような事例を参考にしないよう、私も議会でしっかりと関わっていかなくてはならないという決意する良い機会となりました。

講演会
「北陸新幹線開業と並行在来線」



入場無料
定員100名

福井県立総合文化センター 11月14日(土) 501会議室

日時：平成27年11月14日(土) 13:30~15:10
(13:00~受付開始)

場所：福井県織原ビル5階 501会議室

プログラム

13:00	開場
13:30	あいさつ
13:40~15:00	講演 あいの風とやま鉄道(株) 代表取締役社長 市井 正之氏 「あいの風とやま鉄道の現状と今後の取組みについて」
15:00~15:10	質疑応答

主催 福井県並行在来線対策協議会(事務局 福井県新幹線建設推進課)
共催 福井県工会議所
協賛 日本労働組合総連合会福井県連合会、福井県高等学校PTA連合会、福井県連合婦人会

FAX番号 0776-20-0729

「北陸新幹線開業と並行在来線」 参加申込書
平成27年 月 日

お名前		年齢		性別	
お名前	(平 -)			男	女
ご住所					
TEL・FAX	TEL: () - ()	FAX: () - ()			
E-mail	E-mail: ()				
この講座を 知った経路	<input type="checkbox"/> 電子メール <input type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> 講座チラシ <input type="checkbox"/> 友人・知人 <input type="checkbox"/> 職場 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 職場 <input type="checkbox"/> 市役所・町役場 <input type="checkbox"/> 新聞報道 <input type="checkbox"/> その他 ()				

必要事項をご記入の上、郵送、FAX、E-mailでお申し込みください。

講師プロフィール



市井 正之
あいの風とやま鉄道(株) 代表取締役社長

経歴

- S47.4 近畿日本ツーリスト(株)入社
- H24.12 同社常務取締役就任
- H25.7 あいの風とやま鉄道(株)代表取締役社長
- H26.2 同社代表取締役社長就任

申込み・問い合わせ
福井県総合政策部新幹線建設推進課
〒910-8580
福井県福井市大字3丁目17番1号
TEL: 0776-20-0274
FAX: 0776-20-0729
E-mail: shinkansen@pref.fukui.lg.jp

会場案内
福井県織原ビル
住所: 福井県大野3-7-1
TEL: 0776-22-1411
付記: 1.お申し込み
2.会場から徒歩7分
3.大野バス停
4.織原駅の徒歩7分

※できるだけ公共交通機関をご利用ください。

青年リーダー100人会議 in 珠洲

2015年11月1日(日)。珠洲市にある4つの青年団体(珠洲市青年団協議会、珠洲青年会議所、珠洲ローターアクトクラブ、能登里山里海マイスターネットワーク)が「青年リーダー100人会議 in 珠洲」を合同開催しました。この取り組みは、行政発ではなく、地域の若者達から発案され、コンセプトや当日プログラム等は全て手作りで準備が進められました。

イベント参加者全員で、自分たちが自分たちの地域について誇りを持つことが大事だということを再認識しました。「こんなところによく来たね・・・」ではなく「珠洲に来るなんてよくわかってるね～いいところなんだよ」って言えるようになること。)そして、「誰かがしてくれればいい」というのはあっても「自分がしよう」ということが苦手であることを受け止めました。地域のことに無関心でいるのではなく、自分たちが変わって主体的に動いていかなければならないということ。それらを、楽しみながらそれぞれができることや得意とすることで動いていこうという話になりました。なにより、参加した地域の若者達が「参加してよかった」「楽しかった」と話していたのが何より良かったと思っています。



作/漆崎 耕次

編集後記・・・編集委員より一言

内田(発行責任者)

「毎年のことですが、クリスマスソング流れるの、早すぎませんか!クリスマスケーキの予約、早すぎませんか!ハロウィンですが、騒ぎすぎ! 特段盛り上がるわけではない! 正月ですが、以前と比べて「お正月」感がなくなったね! バレンタインデー、ホワイトデーは要らない! おっちゃんのひとりごとです。」

林(変集長)

「薪ストーブの季節到来! 薪ストーブで焼いたピザの予約注文が早々と入っています。」

事務局 特定非営利活動法人

ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL: 0776-25-7968

e-mail: roba@mbh.nifty.com

URL: http://roba.cocolog-nifty.com/roba/home/